

地域包括ケアシステムにおける急性期病院 MSW とケアマネジャーの連携の在り方

○ 医療法人財団報徳会 西湘病院 氏名 重本 晴賀 (会員番号 9575)

堀越由紀子 (東海大学・9607)、西村 昌記 (東海大学・4143)

キーワード：顔の見える関係、相手の理解、情報の共有

1. 研究目的

団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、厚生労働省は地域包括ケアシステムの構築を推進している。その一環として、平成30年度診療報酬改定では「入退院支援加算」が設定され、医療と介護の連携推進に加え、急性期病院における平均在院日数の短縮化が一層の課題となった。本研究は、そうした背景のもとで退院支援を担う医療ソーシャルワーカー（以下：MSW）と、退院後の患者の支援を引き継ぐ介護支援専門員（以下：ケアマネジャー）の連携を強める要因を明らかにすることが目的である。

2. 研究の視点および方法

本研究では、量的デザインによる仮説検証型調査を行った。質問紙作成にあたっては、先行研究等から「連携プロセスモデル」とする概念様式を想定し、仮説1：「顔の見える関係」が成立すると「相手の理解」が進む、仮説2：「相手の理解」が進むと「情報の共有」が実践される、仮説3：「情報の共有」が実践されると「連携」関係が成り立つ、の3つを調査仮説とした。なお、「相手職種の期待に応える、役割分担、患者本位の支援の3要素が成り立つこと」を本研究における連携の操作的定義とした。

調査対象については、MSWは神奈川県内医療機関公表リストから急性期病院を136カ所抽出し、病床数が500床を超える施設には5通、その他は3通ずつ、計410通を郵送した。また、ケアマネジャーは県内市区町より人口規模に合わせて2～3カ所の事業所を無作為抽出し、76カ所の事業所に対して228通の調査票を郵送した。さらに、神奈川県介護支援専門員協会に調査協力依頼し、3回の研修で180通を配布し、後日返送を依頼した。回収率は、MSW191名（48.9%）、ケアマネジャー187名（45.8%）となった。

調査結果については、データをSPSS25にて解析し、1.「顔の見える関係」を独立変数、年齢・経験年数を統制変数とし、「相手の理解」を従属変数とする重回帰分析、2.「顔の見える関係」「相手の理解」を独立変数、「情報の共有」を従属変数とする重回帰分析、3.「顔の見える関係」「相手の理解」「情報の共有」を独立変数、「連携」を従属変数とする重回帰分析を行った。（結果は表1、図1、図2のとおり）

3. 倫理的配慮

本研究の計画と実施にあたっては、東海大学健康科学部研究倫理審査委員会・東海大学人を対象とする研究倫理審査委員会の審査を受審して承認を得て実施し、日本社会福祉学会の研究倫理規程を遵守して実施した。

4. 研究結果

仮説1について、顔の見える関係が成立するほど、相手の理解が進むことについては、MSWでは相関があったが、ケアマネジャーでは実証されなかった。仮説2について、「相手の理解」が進むことで「情報の共有」がしやすいことについては、両職種で実証された。仮説3について「情報の共有」は「連携」に直接影響を及ぼすことがMSWでは実証されたが、ケアマネジャーでは実証されなかった。

表1 □分析結果

| □ | 相手の理解□ | 情報の共有□ | 連携□ |
|-----------|---------|---------|---------|
| 顔の見える関係□ | .148□ | .347**□ | .306**□ |
| 相手の理解□ | □ | .292**□ | .006□ |
| 情報の共有□ | □ | □ | -.066□ |
| 重相関係数(R)□ | .455**□ | .530**□ | .301*□ |

+ p < .10 * p < .05 ** p < .01

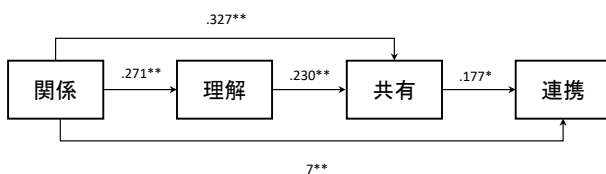


図1 MSWの結果

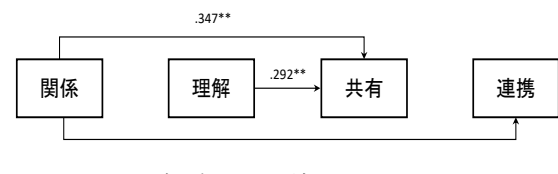


図2 ケアマネジャーの結果

5. 考察

本研究ではMSWとケアマネジャーの連携プロセスに差異があることが明らかになった。自由記載の内容も勘案しながら、以下、考察する。

まず、両職種とも、第1段階で「顔の見える関係」をつくる。利用者支援に伴うケアマネジャーの病院訪問、地域で実施されている勉強会や親睦会での交流によって、それは形成される。そうすると、MSWでは第2段階の相手の職務や仕事の進め方等への理解に進むのだが、ケアマネジャーではそのようには進まない。むしろ、顔の見える関係ができれば、利用者の情報をMSWに伝える、あるいは情報を引き出すなどして共有しようと第3段階にすすむ。あるいは、ケアマネジャーでは顔の見える関係が、ただちに第4段階の連携へとつながっている。また、MSWは情報の共有が連携関係の前提となるが、ケアマネジャーではそうでなくても連携関係を成立させようとしていると考えられる。

地域包括ケアシステムは、患者・利用者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる支援・サービス提供体制の構築が重視されており、MSWとケアマネジャーは重要なアクターとなっている。今回、両者の連携の進め方における特徴が把握されたことを踏まえ、実践の中で良好な連携体制を構築するように努力するとともに、研修等の機会において、この結果を反映できるように工夫していきたい。